

所属・資格 教育学科・教授

申請者氏名 小笠原 喜康

研究課題		多様な志向性をみちびく展示の理論と実践の開発
報告の概要	研究目的 および 研究概要	博物館の展示は、教育活動の中心であることには変わりがない。しかしこれまでの展示は、一方的に館側の研究を展示するばかりで、来館者の意識を導くことは少なかった。確かに、ハンズオン・コーナーを設けるなどの工夫を近年おこなってきてはいるが、理論がないために、おざなりの展示が多かった。そこで本研究では、現象学でいうところの「志向性」の概念の検討から、多様な意識をみちびく展示のありかたについて理論の構築を図ると共に、それを実践に反映していきたい。
	研究の結果	本研究は、博物館での認識を、より個人の志向性にそったものにすべく、その理論構築をはかろうとするものである。それには、フッサールを初めとする現象学での基本概念に迫らなくてはならない。しかもそれを実際に活かす方途を探る中で、理論を構築していかななくてはならない。そこで本研究では、文献による理論研究とともに、実際にセルフガイドを作ること、その理論を構築しようと考えた。この考えから、群馬県高崎にある古墳博物館である「かみつけの里博物館」との共同で、志向性をみちびくセルフガイドを作成して実験をおこなった。それによると、来館者の大人よりも子どもの方が、よりそのガイドを使って、自分なりの発見をすることが確認された。本研究では、そのことを学会で発表するとともに、来年度において研究雑誌で成果を公開する予定である。
	研究の考察・反省	本研究は、上記のように進められたが、反省としては、第1人称的な記述が大人たちには添わないことが確認された。大人は、むしろより精緻な解説を求める。とはいえ、その解説によってどこまで認識が深まっているかは課題がある。これからは、さらに理論研究を進めると共に、より大人に合ったセルフガイドを開発しなくてはならないことが課題である。ただ、まだまだ現象学の考え方を博物館の展示において展開する準備が整っていないことから、引き続きより深い探究が望まれる。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。 【学会発表・講演等】 ◇「Hnd's on の認識論 2：来館者の志向性を導く展示論—世界内存在としての一人称的手法の提案—」第44回全日本博物館学会大会，明治大学，2018.06.23.
研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	